

## 蝶採集について

唐土 洋一

私が蝶採集を始めたのは、中学2年生の夏休みのときであった。そのとき採集した蝶は確か30種だったと記憶している。そして、あくる年より採集を続行し、初めて接触する蝶の姿に歓喜したものである。そして蝶を求めて山野を駆け巡りつつあるうちに、自ずから山歩きの方へと魅力が転嫁して行った。それと同時に家庭の事情等も含め蝶採集から段々と離れて行き、ときおり山歩きの途中で可憐な彼女等の姿をカメラに収めたりする方向へと移行して行った。

本年4月ひさびさに黒田庄へギフチョウの採集に行く機会を得、数年ぶりに彼女等と対面した。彼女等も観迎の意を示してくれたのか念願の野外での撮影にも成功し何ともいえない気持であった。ところで昨今の農薬散布、森林伐採、道路、ダム工事及び宅地造成等による自然環境の激変により、昆虫相もかなり変化してきた。我々蝶類愛好家は大自然の驚異に感嘆するのみでなく、生命の畏敬を尊び、自らの手で自然を破壊するようなことは厳につつしみ、蝶類の保護に務めるよう努力したいものである。

## 林田町に産する ヤブヤンマの生活

菅原昭夫・相坂耕作

国道29号線竜野の手前の林田町奥佐見へ採集についての事である。

ヤブヤンマは雄と雌とでまったく感じが異なり雄は青い目をした異人さんのように大変美しいトンボである。

雌は成虫になってもヤブから離れず一生をヤブで過ごす。こういう習性から名前がつけられたのであろうか。

私たち二人はここ二年間夏の盛りに奥佐見の奥に入っているが、そこにはタルの直径1m 50cm位のが数個捨ててあり、雨が自然にたまり有機質の豊富な水質となつてたまっている。そのタルにはいつも水が $\frac{1}{4}$ 程度残っており、トンボの絶好の産卵場所のように思う。

ヤブヤンマの雌もこのタルの中の木ギレ等に止まって休んでいるのを見うける。産卵している所はまだ見ていないが図鑑等をみるとヤブヤンマは古池の水際のコケの生えたところや湿った土に産卵すると書いてあり、タルの溜り水で実際に産卵しているかどうか疑問であり、本年度はタルの中のヤブヤンマの生活を調べつつ産卵をしているかどうか調査するつもりである。

姫

昆

サ

口

ン

てんとう虫には善玉と悪玉がいる。ヨーロッパでは、レディービートル(淑女のカブト虫)という。西洋では胸にテントウムシのプローチをつける。幸福のシンボルであるからだろう。かわいい口のスプーンでマメを食べるようにアリマキを食べてくれる。

アリマキの天敵であるのは善玉のナホシテントウ、悪玉には28の星を背負ったニジュウヤホシテントウがいる。これは害虫のチャンピオンでトマト、ナスその他農作物を喰いあらししてしまう。

日本には100種近い仲間がいる。

(S.5 相坂耕作)